

まちの明日を試算する

中期財政見通し（平成14～16年度）

私たちが住んでいるまちの財政状況を、市民のみなさんと行政が互いに正しく認識するということは、とても大切なことです。

市は、向こう3年間の市の財政状況を試算し、見通しを明らかにするため、『中期財政見通し（平成14～16年度）』を作成しました。財政係初の女性職員Tさんと、たまたま高校、大学が同期の財政係Nくんの会話という形で、この中期財政見通しについてお知らせします。

登場人物紹介

Nくん

財政課で市の予算や決算の仕事を担当して5年目。日夜、厳しい市の財政に頭を悩ませている。市のほかの仕事をしてみたいと言いつつも、実は、財政の仕事がとても大好きな若手のホープ。



Tさん

税金をかける職場から今年4月財政課に異動してきたばかりの活発で、賢い女性。Nくんとは、同じ高校、大学を卒業。難しい専門用語がいっぱいの財政の仕事に、ちょっと戸惑い気味で、Nくんを頼りにしている。



『中期財政試算』をどうして見直したの？



財政係に配属されるとは思わなかったわ。財政という難しいイメージを持っているんだけど、Nくんがいてくれて心強いわ。よろしくね！



同じ学校で学生時代を過ごしたわけだけど、一緒に仕事をするようになるとは思わなかったよ。ずいぶん綺麗になったんじゃない。



Nくん、ずいぶん大人になったよね。お世辞は、もう一人前。仕事の方は、分らないけど...

そつそつ、財政係では『中期財政見通し』というのを作ったと聞いたけど、どういうものなの？



うん。以前、平成12～16年度の5年間について『中期財政試算』というものを作ったんだけど、実際の予算・決算と開きがでてきたことがある

んだ。もちろん試算だから、仕方がないところがあるんだけど、開きが大きくなり過ぎると役に立たなくなるよね。

それと君も知っていると思うけど、国が地方を巻き込んだ財政構造改革を検討していて、地方交付税制度も見直されることになっているんだ。



エヘン。地方交付税なら少、勉強しているのよ。地方交付税というのは、所得税や法人税などの国税の一定割合を、各自治体に配分するものね。これによって、全国的に一定の行政サービスができるよう、財政的に保障しているのよ。



よく知っているね。なにしろ、収入でみると、国対地方は3対2。だけど支出ベースでみると、2対3と逆転して地方の方が多くなっているんだ。その調整をしているのが、地方交付税や国庫支出金なんだけど、地方交付税は使い道が自由なお金で、しかも登別では一般会計の収入の4分の1と、とても大きな割合を占める大切な財源なんだ。

でも、国の交付税特別会計も赤字になっていて、交付税としては配分しないかわりに、赤字の一定割合を各自治体で借金をして対応しなさいということになってきたんだ。ただし、この借金の元利償還金は将来、